

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7589568号
(P7589568)

(45)発行日 令和6年11月26日(2024.11.26)

(24)登録日 令和6年11月18日(2024.11.18)

(51)国際特許分類

F I

E 0 4 H 1/02 (2006.01)

E 0 4 H 1/02

請求項の数 7 (全13頁)

(21)出願番号	特願2021-12006(P2021-12006)	(73)特許権者	000198787
(22)出願日	令和3年1月28日(2021.1.28)		積水ハウス株式会社
(65)公開番号	特開2022-115422(P2022-115422 A)		大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
(43)公開日	令和4年8月9日(2022.8.9)	(74)代理人	100080182
審査請求日	令和5年8月25日(2023.8.25)		弁理士 渡辺 三彦
特許法第30条第2項適用 2020年5月30日 積水ハウス株式会社が、「KTVハウジング 京都五条住宅展示場」内の展示住宅「Gravis Stage」にて公開した。		(72)発明者	市川 友紀子
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		(72)発明者	眞鍋 貴治
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		(72)発明者	松原 みちよ
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
最終頁に続く			

(54)【発明の名称】 住宅

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

下階の居室が形成される基準床部と、
前記基準床部に隣接して形成され、当該基準床部よりも床面が高い第一スキップフロア部と、
前記第一スキップフロア部に隣接して形成され、当該第一スキップフロア部よりも床面が高い第二スキップフロア部と、
前記第二スキップフロア部から上階に接続する階段と、
前記第一スキップフロア部及び前記第二スキップフロア部の上方に形成され、前記上階に繋がる吹き抜けと、
を備え、
前記第一スキップフロア部は、前記基準床部との境界の一部に机が形成されるとともに、前記第一スキップフロア部と前記基準床部との境界の前記机が形成された部分を除いた部分に前記基準床部と前記第一スキップフロア部とを接続する前記階段よりも高さが低い第一小階段が形成され、
前記階段は、前記第二スキップフロア部から前記第一スキップフロア部の前記机の上方を
通って、前記上階の床面に接続し、
前記第一スキップフロア部と、前記第二スキップフロア部との境界の前記階段の下方を含む全幅に、前記第一スキップフロア部と前記第二スキップフロア部とを接続する前記階段よりも高さが低い第二小階段が形成されることを特徴とする住宅。

【請求項 2】

前記階段は蹴込板が光透過性を有することを特徴とする請求項 1 に記載の住宅。

【請求項 3】

前記第二スキップフロア部は前記第一スキップフロア部と反対側が上下 2 階層に亘って外壁に面しており、

当該第二スキップフロア部は、前記下階側の前記外壁に沿って幅方向の中央下部が開かれた門型の書棚が形成され、

前記外壁は、上階側に第一開口部が形成されるとともに、前記書棚の中央下部の開かれた部分に前記第一開口部よりも小さい半透明の第二開口部が形成されることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の住宅。

10

【請求項 4】

前記第一スキップフロア部及び前記第二スキップフロア部は、正面が前記基準床部に向かって開かれているとともに、両側縁にそれぞれ間仕切壁が形成されており、

前記基準床部は、前記第一スキップフロア部の正面に隣接してリビング空間が形成されており、

前記リビング空間を挟んで前記第一スキップフロア部の向かい側に天井高の大開口が形成されることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 5】

前記リビング空間の天井面は、前記大開口に近い部分に第一天井面が形成されるとともに、前記第一スキップフロア部に近い部分に前記第一天井面よりも高く形成され、梁が露出した第二天井面が形成されており、前記第一天井面の上に配置され、前記梁の間から前記第二天井面を照射する間接照明装置が設けられることを特徴とする請求項 4 に記載の住宅。

20

【請求項 6】

前記第一スキップフロア部は、前記間仕切壁を挟んでキッチン空間と隣接しており、

前記間仕切壁は、前記第一スキップフロア部と前記キッチン空間との間に当該間仕切壁を貫通する棚部が形成されることを特徴とする請求項 4 又は請求項 5 に記載の住宅。

【請求項 7】

前記間仕切壁は、前記第二スキップフロア部に面する部分が掘り込まれて、ベンチが設けられた壁体内ベンチスペースが形成されることを特徴とする請求項 4 から請求項 6 のいずれかに記載の住宅。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、2 階建て以上であり、下階にステージ床部を有する住宅に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来より、下階の基準床に 3 段ほどの階段を設けて一部の床を高くしたスキップフロアが形成された住宅が知られている。このような住宅のスキップフロアの中には、勉強、読書、在宅ワークなどに利用可能なように、例えばカウンターを設けたものも提案されている（例えば特許文献 1 参照）。また、スキップフロアが基準床に設けられたリビングに向かって開放されており、リビングでくつろぐ居住者とスキップフロアにいる居住者とが、互いにコミュニケーションをとることができる点についても、開示されている。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【文献】特開 2019 - 148100 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

50

上述のような住宅は、スキップフロアを居住者同士が適度に繋がりを持ちつつも、それぞれが自由に過ごすことができる空間としている。

【 0 0 0 5 】

そこで、本発明は、スキップフロアの居心地をさらに高めた住宅を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

本発明の住宅は、下階の居室が形成される基準床部と、前記基準床部に隣接して形成され、当該基準床部よりも床面が高い第一スキップフロア部と、前記第一スキップフロア部に隣接して形成され、当該第一スキップフロア部よりも床面が高い第二スキップフロア部と、前記第二スキップフロア部から上階に接続する階段と、前記第一スキップフロア部及び前記第二スキップフロア部の上方に形成され、前記上階に繋がる吹き抜けと、を備え、前記第一スキップフロア部は、前記基準床部との境界の一部に机が形成されるとともに、前記第一スキップフロア部と前記基準床部との境界の前記机が形成された部分を除いた部分に前記基準床部と前記第一スキップフロア部とを接続する前記階段よりも高さが低い第一小階段が形成され、前記階段は、前記第二スキップフロア部から前記第一スキップフロア部の前記机の上方を通して、前記上階の床面に接続し、前記第一スキップフロア部と、前記第二スキップフロア部との境界の前記階段の下方を含む全幅に、前記第一スキップフロア部と前記第二スキップフロア部とを接続する前記階段よりも高さが低い第二小階段が形成されることを特徴としている。

【 0 0 0 9 】

本発明の住宅は、前記第二スキップフロア部は前記第一スキップフロア部と反対側が上下2階層に亘って外壁に面しており、当該第二スキップフロア部は、前記下階側の前記外壁に沿って幅方向の中央下部が開かれた門型の書棚が形成され、前記外壁は、上階側に第一開口部が形成されるとともに、前記書棚の中央下部の開かれた部分に前記第一開口部よりも小さい半透明の第二開口部が形成されることを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

本発明の住宅は、前記第一スキップフロア部及び前記第二スキップフロア部は、正面が前記基準床部に向かって開かれているとともに、両側縁にそれぞれ間仕切り壁が形成されており、前記基準床部は、前記第一スキップフロア部の正面に隣接してリビング空間が形成されており、前記リビング空間を挟んで前記第一スキップフロア部の向かい側に天井高の大開口が形成されることを特徴としている。

【 0 0 1 1 】

本発明の住宅は、前記リビング空間の天井面は、前記大開口に近い部分に第一天井面が形成されるとともに、前記第一スキップフロア部に近い部分に前記第一天井面よりも高く形成され、梁が露出した第二天井面が形成されており、前記第一天井面の内部に配置され、前記梁の間から前記第二天井面を照射する間接照明装置が設けられることを特徴としている。

【 0 0 1 2 】

本発明の住宅は、前記第一スキップフロア部は、前記間仕切壁を挟んでキッチン空間と隣接しており、前記間仕切壁は、前記第一スキップフロア部と前記キッチン空間との間に当該間仕切壁を貫通する棚部が形成されることを特徴としている。

【 0 0 1 3 】

本発明の住宅は、前記間仕切壁は、前記第二スキップフロア部に面する部分が掘り込まれて、ベンチが設けられた壁体内ベンチスペースが形成されることを特徴としている。

【発明の効果】

【 0 0 1 4 】

本発明の住宅によると、第一スキップフロア部と、第一スキップフロア部よりも床面の高い第二スキップフロア部とが形成されるので、視線の高さや基準床部からの距離を異ならせることができ、居心地の異なる2つの空間とすることができる。したがって、空間を

10

20

30

40

50

利用する目的や気分又は好みに応じてそれぞれの空間を選択することができる。さらに、第一スキップフロア部が下階の基準床部に近く、第二スキップフロア部が第一スキップフロア部に比べて上階に近い空間となるので、下階と上階とを段階的な印象で繋げることができ、上下階の連続性や一体感を感じさせることができる。また、上階と下階との間を移動する際には、第一スキップフロア部と第二スキップフロア部とを通過することとなるので、上下階の移動の変化を演出することができ、楽しい印象とすることができる。第一スキップフロア部は、基準床部との境界の一部に机が形成されるので、基準床部との繋がりを感じながら、又は基準床部にいる居住者とのコミュニケーションを図りながら、机での勉強、読書、又は仕事を行うことができる。また、第一スキップフロア部と基準床部との境界の机が形成された部分を除いた部分に第一小階段が形成され、第一スキップフロア部と第二スキップフロア部との境界の全幅に第二小階段が形成されるので、下階の基準床から見ると通常よりも広い幅の階段であるとの印象を感じることができ、第一スキップフロア部及び第二スキップフロア部をステージのような印象とすることができる。また、第二小階段が第一スキップフロア部と第二スキップフロア部との境界の全幅に形成されることで、第二小階段の一部を通行の邪魔になることなく、腰かけてベンチのように利用することもできる。

10

【 0 0 1 5 】

本発明の住宅によると、上階の床面に接続される階段は、第二スキップフロア部から第一スキップフロア部の上方を通るように配置されているので、階段下空間を第一スキップフロア部として効率的に利用することができる。第一スキップフロア部は第二スキップフロア部よりも床面が低いので、上方に階段が設けられていても圧迫感を感じにくい。加えて、第一スキップフロア部は、基準床部との境界の一部に机が設けられて、基準床部側を向いて勉強、読書、又は仕事を行うことができる空間であるので、上方に階段が形成されていても当該階段が視界に入ることなく、勉強、読書又は仕事に集中することができる。

20

【 0 0 1 6 】

本発明の住宅によると、階段は、上述の第二スキップフロア部から第一スキップフロア部の上方を通る配置に加えて、蹴込板が光透過性を有するものである所以、階段よりも上からの光が第一スキップフロア部にも導かれることとなり、第一スキップフロア部を採光性に優れた、圧迫感の少ない空間とすることができる。

【 0 0 1 7 】

30

本発明の住宅によると、第二スキップフロア部は書棚が形成されるので、書庫として利用することができ、第一スキップフロア部とは異なる雰囲気的空間にすることができる。とともに、上下階の移動をより変化にとんだ楽しいものとするすることができる。さらに、第二スキップフロア部の第一スキップフロア部と反対側に上下2階層に亘った外壁が形成されており、当該外壁は、上階側に第一開口部が形成されて、屋外光を取り入れることができる。また、第二スキップフロア部に形成される書棚が、外壁に沿って幅方向の中央下部が開かれた門型に形成されており、当該外壁が書棚の中央下部の開かれた部分に第一開口部よりも小さい半透明の第二開口部が形成されているので、書棚の間からも屋外光を取り入れることができ、第二スキップフロア部を外壁に沿って書棚を配置しつつも採光性に優れた空間とすることができる。第二開口部が半透明であることで、屋外側からの視線を遮り、第二スキップフロア部のプライバシーも守ることができる。

40

【 0 0 1 8 】

本発明の住宅によると、基準床部は、第一スキップフロア部の正面と隣接してリビング空間が形成されているので、第一スキップフロア部の机で読書や作業を行っている居住者はリビング空間にいる居住者との間でコミュニケーションを図ることができる。第一スキップフロア部及び第二スキップフロア部の正面が基準床部に向かって開かれていることで、第一スキップフロア部は直接リビング空間に隣接することとなり、第二スキップフロア部も第一スキップフロア部を通してリビング空間に向き合うこととなり、第二スキップフロア部も適度にリビング空間とつながりのある空間とすることができる。そして、第一スキップフロア部と向き合う基準床部のリビング空間を挟んで、第一スキップフロ

50

ア部の向かい側に天井高の大開口が形成されているので、第一スキップフロア部の視界をより解放感のあるものとすることができる。

【0019】

本発明の住宅によると、リビング空間の天井面は、大開口に近い部分に第一天井面が形成されるとともに、第一スキップフロア部に近い部分に第一天井面よりも高く形成され、梁が露出した第二天天井面が形成されているので、例えば第一天天井面の下方をくつろぐための空間とし、第二天天井面の下方を通路して利用する空間とするなどのように、リビング空間を異なる2つの印象の空間に分けることができる。また、一部を第二天天井面として現し梁の天井高の高い空間とすることで、全体的に天井高が均一の場合に比べて軽やかな印象の空間とすることができる。そして、第一天天井面の内部に配置され、梁の間から第二天天井面を照射する間接照明装置が設けられているので、第一天天井面と第二天天井面との段差を利用して間接照明を設けることができる。しかも第一天天井面と第二天天井面との段差から第二天天井面を照射するので、第二天天井面で反射した光の一部は第一スキップフロアに入射することとなり、第一スキップフロアを間接照明でやさしく照らすことができる。

10

【0020】

本発明の住宅によると、第一スキップフロア部とキッチン空間との間に形成された間仕切壁を貫通するように棚部が形成されているので、第一スキップフロア部からは棚部を通してキッチン空間を視認することができ、第一スキップフロア部にいる居住者が、キッチン空間で作業をする他の居住者を視認することができ、コミュニケーションを図ることができる。

20

【0021】

本発明の住宅によると、第二スキップフロア部に面する間仕切壁が掘り込まれて、ベンチが設けられた壁体内ベンチスペースが形成されているので、第二スキップフロア部の書棚から取り出した本を壁体内ベンチスペースで読む等、第二スキップフロア部をよりくつろげる空間とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】住宅の下階の間取りを示す水平断面図。

【図2】住宅の上階の間取りを示す水平断面図。

【図3】住宅の上下階における階段室の構成を説明する一部省略鉛直断面図。

30

【図4】階段室の構成を説明する正面図。

【図5】階段室の構成を説明する斜視図。

【図6】第一スキップフロア部の採光性を説明する省略断面図。

【図7】第一スキップフロア部の視界を説明する省略断面図。

【発明を実施するための形態】

【0023】

以下、本発明に係る住宅の実施形態について、各図を参照しつつ説明する。本実施形態において、住宅1は木造2階建ての戸建住宅である。なお、住宅1は木造に限定されるものではなく、鉄骨造や鉄筋コンクリート造などの他の構造の住宅であってもよい。また、住宅1は2階建てに限定されるものではなく、3階建て以上の住宅1であってもよい。本実施形態においては、住宅1の下階は1階であり、住宅1の上階は2階であるが、例えば3階建て以上の住宅1の場合は、下階が2階で上階が3階である場合のように、上下階は上下に連続する2階層であれば何階であってもよい。

40

【0024】

まず、住宅1の間取りを説明する。住宅1は、図1に示すように、下階である1階の南東角に玄関ポーチ2が形成され、玄関ポーチ2の北側に引き違い戸の玄関ドアを挟んで玄関土間3及び玄関ホール4を有する玄関部5が形成されている。玄関部5の北側には玄関部5との間に間仕切壁を隔てて、下階個室6が形成されている。下階個室6は、例えば、来客ルーム、子供部屋、多目的室、又は応接室といった様々な用途で利用可能である。下階個室6の西には、階段室7が形成されている。また、玄関部5の西側には、南側の外壁

50

から繋がるように南北方向に壁体 8 が設けられており、玄関部 5 の西側に形成される基準床部 9 を隔てている。玄関部 5 は、北西側が基準床部 9 に対して通行可能に接続している。基準床部 9 は、本実施形態においては、リビング空間 10、ダイニング空間 11、及びキッチン空間 12 が間仕切壁などに遮られることなく一体となった無柱の空間である。詳しくは後述する。

【0025】

階段室 7 は、図 1 及び図 3 に示すように、下階と上階とを繋ぐように吹き抜けて形成されている。階段室 7 は住宅 1 の北側の外壁 13 に面して形成されており、住宅 1 の東西方向の略中央に配置されている。階段室 7 は、当該階段室 7 に隣接して形成される基準床部 9 よりも床面が高い第一スキップフロア部 14 と、第一スキップフロア部 14 に隣接して形成されており、第一スキップフロア部 14 よりも床面が高い第二スキップフロア部 15 と、第二スキップフロア部 15 から上階に接続する階段 16 と、を備えている。階段室 7 は平面視矩形に形成されており、基準床部 9 に隣接して第一スキップフロア部 14 が形成されており、当該第一スキップフロア部 14 の北側に第二スキップフロア部 15 が北側の外壁 13 に面して形成されている。

10

【0026】

階段室 7 は、図 1、図 4、及び図 5 に示すように、基準床部 9 に向かって南側が開かれた正面となっており、北側が外壁によって閉じられた背面となっている。そして、階段室 7 の東西方向の両側縁にはそれぞれ間仕切壁 17、18 が形成されている。これらの間仕切壁 17、18 のうち、東側の間仕切壁 17 は、下階個室 6 との間を隔てている。また、西側の間仕切壁 18 は、後述する趣味室 50 及びキッチン空間 12 のとの間を隔てている。

20

【0027】

第一スキップフロア部 14 は、図 3 及び図 5 に示すように、その南側の端縁に当たる基準床部 9 との境界の一部に机 19 が形成されている。また、第一スキップフロア部 14 と基準床部 9 との境界の机 19 が形成された部分を除いた部分に、基準床部 9 と第一スキップフロア部 14 とを接続する 3 段の第一小階段 20 が形成される。第一小階段 20 は、西側の間仕切壁 18 と机 19 との間に形成されている。机 19 は、第一スキップフロア部 14 と基準床部 9 との境界線に沿って東側に配置されており、図 5 及び図 6 に示すように、天板 22 と、天板 22 の南側の端縁に形成される鉛直板状の正面板 23 と、天板 22 の西側の端縁に形成される鉛直板状の側板 24 とを有している。天板 22 は矩形水平板状に形成されており、間仕切壁 18 に形成されたコンセントから電源ケーブルや通信ケーブルを天板 22 上に配線するための貫通孔が設けられている。正面板 23 は、天板 22 の南側の端縁に基準床部 9 の床面から天板 22 よりも高い位置まで伸びる鉛直板材である。側板 24 は、図 1 及び図 3 に示すように、下端が第一小階段 20 の形状に整合する形状に加工されて形成されており、上端が天板 22 よりも高い位置まで伸びる鉛直板材である。このように、正面板 23 及び側板 24 は、天板 22 の端縁から上方に立ち上がっているため、天板 22 に載置した例えば書類や筆記具が天板 22 から基準床部 9 側に転落することを防止できるとともに、側板 24 の上端は、第一小階段 20 を上り下りする際の手すりとしても用いることができる。机 19 を利用する居住者は第一スキップフロア部 14 に配置された椅子に基準床部 9 側を向いて腰かけて、勉強、読書、又は仕事を行う。

30

40

【0028】

西側の間仕切壁 18 の第一スキップフロア部 14 に面する位置には、図 1 及び図 5 に示すように、第一スキップフロア部 14 の床面から下階の天井高さまでの範囲に、当該西側の間仕切壁 18 を貫通する貫通孔が形成されており、当該貫通孔には 4 つの棚板が水平に架設されて、棚部 25 を形成している。棚部 25 は、例えばインテリア小物、置物、又はフォトフレームを載置する飾り棚である。第一スキップフロア部 14 の机 19 で作業を勉強、読書、又は仕事を行う居住者は、棚部 25 の置物などの隙間を通してキッチン空間 12 を視認することができ、第一スキップフロア部 14 をより解放感のある空間とすることができるとともに、キッチン空間 12 で作業をする他の居住者とコミュニケーションを図

50

ることができる。

【 0 0 2 9 】

第二スキップフロア部 1 5 は、第一スキップフロア部 1 4 との境界に当該第一スキップフロア部 1 4 と第二スキップフロア部 1 5 とを接続する 3 段の第二小階段 2 1 が形成されている。第二小階段 2 1 は、階段室 7 の全幅に亘って形成されている。第二小階段 2 1 は、第一小階段 2 0 と平行に配置されている。このように、第一スキップフロア部 1 4 と基準床部 9 との境界の机 1 9 が形成された部分を除いた部分に第一小階段 2 0 が形成され、第一スキップフロア部 1 4 と第二スキップフロア部 1 5 との境界の全幅に第二小階段 2 1 が形成されるので、下階の基準床部 9 から見ると、第一小階段 2 0 及び第二小階段 2 1 が、一般的な住宅 1 の階段に比べて幅広で緩やかな階段であるとの印象を感じることができ、第一スキップフロア部 1 4 及び第二スキップフロア部 1 5 をステージのような印象とすることができる。また、第二小階段 2 1 が第一スキップフロア部 1 4 と第二スキップフロア部 1 5 との境界の全幅に形成されることで、第二小階段 2 1 の一部を通行の邪魔になることなく、腰かけてベンチのように利用することもできる。

10

【 0 0 3 0 】

第二スキップフロア部 1 5 に面する西側の間仕切壁 1 8 は一部が掘り込まれて壁体内ベンチスペース 2 6 が形成されている。壁体内ベンチスペース 2 6 は、第二スキップフロア部 1 5 の床面から下階の天井高さまでの範囲が掘り込まれて形成された掘り込み空間に、上面にクッションが設けられた直方体のベンチが収納されて形成されている。

【 0 0 3 1 】

20

第二スキップフロア部 1 5 は北側が上下 2 階層に亘って外壁 1 3 に面している。第二スキップフロア部 1 5 は、北側の外壁 1 3 に沿って下階に書棚 2 7 が設けられている。書棚 2 7 は、幅方向の中央下部が開かれた門型に形成されている。すなわち書棚 2 7 は、正面から見て矩形形状の中央下部が小さな矩形に切り欠かれた形状である。書棚 2 7 は複数の棚板が設けられて図示しない書籍を収納可能に形成されている。このように第二スキップフロア部 1 5 は、書棚 2 7 が設けられるとともに、壁体内ベンチスペース 2 6 が形成されているので、書棚 2 7 から取り出した本を壁体内ベンチスペース 2 6 で読む等、第二スキップフロア部 1 5 をよりくつろげる空間とすることができる。

【 0 0 3 2 】

第二スキップフロア部 1 5 の北側の外壁 1 3 の上階側には幅方向の中央に柱 2 8 が設けられるとともに、柱 2 8 を挟んで両側が全面が開かれた透明なはめ殺しの第一開口部 2 9 が形成されている。そして、北側の外壁 1 3 の書棚 2 7 の中央下部の開かれた部分に整合する位置には、第一開口部 2 9 よりも小さな半透明の第二開口部 3 0 が形成されている。

30

【 0 0 3 3 】

第二スキップフロア部 1 5 の下には、図 3 及び図 5 に示すように、床下収納スペース 3 1 が形成されている。床下収納スペース 3 1 は、第二スキップフロア部 1 5 の東側に隣接する下階個室 6 からアクセス可能に形成されている。

【 0 0 3 4 】

第二スキップフロア部 1 5 から上階に接続する階段 1 6 は、第二スキップフロア部 1 5 の東側に固定されており、第二スキップフロア部 1 5 から第一スキップフロア部 1 4 の上方を通して、上階の床面に接続している。階段 1 6 は、第一スキップフロア部 1 4 の机 1 9 が形成されている側に配置されており、階段 1 6 よりも高さが低い第一小階段 2 0 及び第二小階段 2 1 を直線的に北向きに上った居住者が、第二スキップフロア部 1 5 を踊り場として方向転換し、第二スキップフロア部 1 5 から南向きに上って上階に入るものである。階段 1 6 は、第一スキップフロア部 1 4 の机 1 9 の上方に延びて形成されている。階段 1 6 は側桁 3 2 及び段板 3 3 が例えば鋼材を溶接して形成されており、蹴込板 3 4 が乳白色の光透過性を有するアクリル製である。なお側桁 3 2 及び段板 3 3 の材質はこれに限定されるものではなく、例えば木製であってもよい。

40

【 0 0 3 5 】

このように、第二スキップフロア部 1 5 の北側の外壁 1 3 には、上階側に全面が開かれ

50

た第一開口部 2 9 が形成され、下階側に半透明の第二開口部 3 0 が形成されており、階段 1 6 の蹴込板 3 4 が光透過性を有しているので、図 5 及び図 6 に示すように、第一開口部 2 9 及び第二開口部 3 0 から入射する外光は、第二スキップフロア部 1 5 を明るく照らすとともに、蹴込板 3 4 を通して第一スキップフロア部 1 4 にも入射するので、第一スキップフロア部 1 4 の採光性を高めることができる。

【 0 0 3 6 】

本実施形態の階段室 7 は、第一スキップフロア部 1 4 と、第一スキップフロア部 1 4 よりも床面の高い第二スキップフロア部 1 5 とが形成されていることで、視線の高さや基準床部 9 からの距離を異ならせることができ、居心地の異なる 2 つの空間とを、当該空間を利用する目的や気分又は好みに応じて選択することができる。そして、第一スキップフロア部 1 4 が下階の基準床部 9 に近く、第二スキップフロア部 1 5 が上階に近いことで、下階と上階とを段階的に繋がった印象とし、上下階の連続性や一体感を感じさせることができる。また、上階と下階との間を移動する際には、第一スキップフロア部 1 4 と第二スキップフロア部 1 5 とを通過することとなるので、上下階の移動の変化を演出することができる、楽しい印象とすることができる。

【 0 0 3 7 】

基準床部 9 の床面は標準的な 1 階の床レベルであり、図 1 に示すように、本実施形態においては全面が面一に形成されている。リビング空間 1 0 及びダイニング空間 1 1 は、例えば配置される家具や照明によって緩やかに用途が区分けされた空間である。また、キッチン空間 1 2 は、シンク、ワークトップ、及びコンロ等が一体となったシステムキッチン 3 5 が配置された空間である。

【 0 0 3 8 】

本実施形態においては、玄関部 5 の西側に隣接してリビング空間 1 0 が形成されており、リビング空間 1 0 の西側にダイニング空間 1 1 が形成され、ダイニング空間 1 1 の北側にキッチン空間 1 2 が形成されている。リビング空間 1 0 は階段室 7 の南側に隣接して形成されている。リビング空間 1 0 の天井面は、図 3 及び図 6 に示すように、南側に形成される第一天井面 3 6 よりも北側に形成される第二天天井面 3 7 が高く形成されている。第一天天井面 3 6 は、天井懐に設けられる梁 3 8 の下面に木製の化粧面材 3 9 を張り渡して形成されており、リビング空間 1 0 の北側部分からダイニング空間 1 1 に亘って形成されている。また、第二天天井面 3 7 は、第一天天井面 3 6 の化粧面材 3 9 が途切れており、梁 3 8 が現わされるとともに、梁 3 8 の間にクロスが張り付けられた天井化粧面 4 0 が形成されている。第一天天井面 3 6 の天井懐には、現し梁 3 8 の間から第二天天井面 3 7 の天井化粧面 4 0 を照射する間接照明装置 4 1 が設けられている。このように構成すると、間接照明装置 4 1 が第二天天井面 3 7 を照射し、当該第二天天井面 3 7 で反射した光の一部は第一スキップフロア部 1 4 に入射することとなるので、第一スキップフロア部 1 4 の机 1 9 を間接的にやさしく照らすことができる。

【 0 0 3 9 】

リビング空間 1 0 は南側が外壁に面しており、外壁はリビング空間 1 0 に面して、大開口 4 2 が形成されている。リビング空間 1 0 に面する大開口 4 2 は、上端が天井高さで、下端が床面の高さであるサッシに窓ガラスを配置したはめ殺し窓であり、リビング空間 1 0 の南側に幅 2 m の大開口 4 2 が 2 つ並べて形成されている。なお、大開口 4 2 が天井高さ及び床面の高さであるとは、少なくとも垂れ壁や立ち上がり壁が形成されることなく、サッシ枠の一部が天井面及び床面に埋まった状態となり、天井面から床面までのほぼ全面が透明なガラスに仕切られた状態となる開口をいう。また、ダイニング空間 1 1 の南側には、リビング空間 1 0 の南側の大開口 4 2 と並んで、4 枚引き違いの掃き出し窓 4 3 が形成されている。また、ダイニング空間 1 1 の西側にも天井高さのはめ殺し窓 4 4 が形成されている。これらのダイニング空間 1 1 に面する掃き出し窓 4 3 及び嵌め殺し窓 4 4 も天井面から床面までのほぼ全面が開かれた開口となっている。

【 0 0 4 0 】

リビング空間 1 0 及びダイニング空間 1 1 の南側の屋外及びダイニング空間 1 1 の西側

の屋外には、軒４５が張り出すとともに、テラスが設けられた軒下テラス空間４７となっている。リビング空間１０及びダイニング空間１１の第一天井面３６は軒裏面４６と略面一であり、第一天天井面３６の化粧面材３９と軒裏面４６とはいずれも色や質感が近い木製に形成されている。また、軒下テラス空間４７の床面の高さは、基準床部９の床面と略面一に形成されており、軒下テラス空間４７は基準床部９のリビング空間１０及びダイニング空間１１と連続的な印象の空間となっている。

【００４１】

このように本実施形態の住宅１によると、図７に示すように、第一スキップフロア部１４が、リビング空間１０との境界の一部に机１９が形成されるので、当該リビング空間１０を含む基準床部９との繋がりを感じながら、又は基準床部９にいる居住者とのコミュニケーションを図り、机１９での勉強、読書、又は仕事を行うことができる。このとき、図６に示すように、間接照明装置４１が、第二天天井面３７を照射し、その反射光が第一スキップフロア部１４をやさしく照らすとともに、第二スキップフロア部１５の北側の外壁１３の第一開口部２９及び第二開口部３０から入射した自然光も蹴込板３４を透過して第一スキップフロア部１４に導かれるので、第一スキップフロア部１４を採光性に優れた、圧迫感の少ない、居心地の良い空間とすることができる。また、第一スキップフロア部１４は、図７に示すように、リビング空間１０に面するとともに、西側の間仕切壁１８に形成された棚部２５を通してキッチンを視認可能であるので、階段下の天井の低い落ち着いたこもり感のある空間でありつつも視界が広く開けた適度に解放感のある空間とすることができる。しかも第一スキップフロア部１４からは、基準床部９のリビング空間１０から連続する印象の大開口４２が視認可能であるのでより解放感を感じることができる。

【００４２】

キッチン空間１２のシステムキッチン３５はアイランド式であり、キッチン空間１２での作業は概ね東側の階段室７及びリビング空間１０を向いて行われる。階段室７との境界に形成される間仕切壁１７には当該間仕切壁１７を貫通する棚部２５が設けられており、キッチン空間１２から第一スキップフロア部１４が視認可能であり、第一スキップフロア部１４にいる居住者とコミュニケーションを図ることができる。キッチン空間１２は、図１に示すように、西側の壁面に食器棚４８が埋め込まれている。キッチン空間１２の北西には、パントリー４９が設けられている。パントリー４９内には、壁内に冷蔵庫置き場が設けられている。キッチン空間１２の北側には趣味室５０が設けられている。

【００４３】

住宅１の上階は、図２に示すように、略中央に階段１６が接続される階段ホール５１が形成されている。階段ホール５１の北側には階段室７の吹き抜けが形成されている。そして、階段室７の東側には、主寝室５２が形成されている。主寝室５２は開き戸を通して階段室７と接続されている。主寝室５２の東側にはバルコニーが設けられている。また、主寝室５２はその南側にウォークインクローゼット５３が形成されている。ウォークインクローゼット５３と、主寝室５２とは、互いに透明な引き戸の建具によって仕切られている。ウォークインクローゼット５３の南側には洗面室５４が設けられている。ウォークインクローゼット５３と洗面室５４とは建具を介して互に行き来可能に形成されている。洗面室５４は引き戸を介して階段ホール５１に接続されている。洗面室５４には、洗面台５５及び洗濯機置き場５６が東側の外壁に沿って設けられている。また、洗面室５４の南西にはバスルーム５７が設けられている。

【００４４】

階段室７の西側には、畳敷きの和室５８が設けられている。和室５８は襖状の引き違い戸を介して階段ホール５１に接続している。和室５８の南側にはサブリビング５９が形成されている。サブリビング５９は階段ホール５１に接続されている。サブリビング５９の東側には、多用途に利用可能な上階個室６４が形成されている。上階個室６４の南側には外壁を挟んで、屋外吹き抜け６５が形成されており、下階のリビング空間１０の南側に設けられた軒下テラス空間４７の軒４５の一部が貫通して形成されており、リビング空間１０に外光が取り込まれやすくなっている。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 5 】

階段ホール 5 1 の南側には身支度室 6 0 が形成されている。身支度室 6 0 は、東西方向に長い平面視長方形であり、西側が引き戸を介してサブリビング 5 9 に接続されている。また、身支度室 6 0 は、東側が開き戸を介して階段ホール 5 1 に接続されている。身支度室 6 0 の内部には、手洗い可能な水栓付きのシンク 6 1 が設けられており、シンク 6 1 に隣接して、衣類を収納可能なハンガーポールや衣類収納棚が設けられた衣類収納部 6 2 が形成されている。身支度室 6 0 はさらに衣類収納部 6 2 に隣接して、ソファ 6 3 が配置されており、ソファ 6 3 に腰かけて身支度を整えることができるように構成されている。

【 0 0 4 6 】

階段ホール 5 1 には、主寝室 5 2、洗面室 5 4、和室 5 8、サブリビング 5 9、及び階段室 7 に直接アクセス可能に隣接して住宅 1 の上階の略中央に配置されているので、上階から下階に移動する動線を短くすることができる。また、階段ホール 5 1 に隣接して身支度室 6 0 が設けられていることで、上階で身支度を整えてから下階に移動することもでき、例えば上下階を比較的プライベートな空間とパブリックな空間に使い分けることができる。

10

【 0 0 4 7 】

階段室 7 が下階の基準床部 9 のリビング空間 1 0 と、上階の階段ホール 5 1 とに接続されていることで、第一スキップフロア部 1 4 は下階の延長のような空間となり、第二スキップフロア部 1 5 は、上階の気配が感じられる空間となるので、上下階を段階的につなぐことができ、住宅 1 の上下階を適度に繋がった空間とすることができる。

20

【 0 0 4 8 】

本発明の実施の形態は上述の形態に限ることなく、本発明の思想の範囲を逸脱しない範囲で適宜変更することができることは云うまでもない。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 4 9 】

本発明に係る住宅 1 は、居心地のよいスキップフロアを有する住宅 1 として好適である。

【符号の説明】

【 0 0 5 0 】

- 1 住宅
- 9 基準床部
- 1 0 リビング空間
- 1 2 キッチン空間
- 1 3 北側の外壁（外壁）
- 1 4 第一スキップフロア部
- 1 5 第二スキップフロア部
- 1 6 階段
- 1 7 東側の間仕切壁（間仕切壁）
- 1 8 西側の間仕切壁（間仕切壁）
- 1 9 机
- 2 0 第一小階段
- 2 1 第二小階段
- 2 5 棚部
- 2 6 壁体内ベンチスペース
- 2 9 第一開口部
- 3 0 第二開口部
- 3 4 蹴込板
- 3 6 第一天井面
- 3 7 第二天井面
- 4 1 間接照明装置
- 4 2 大開口

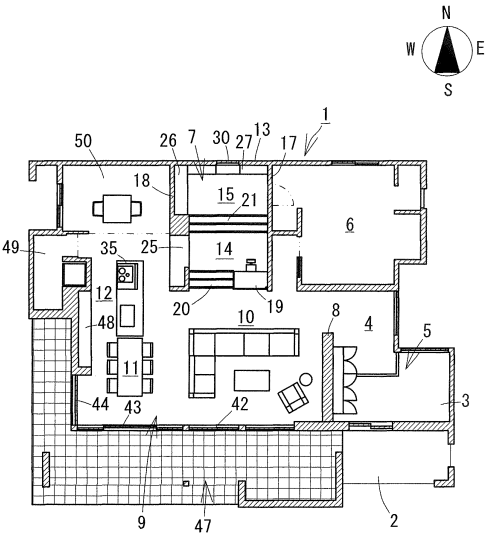
30

40

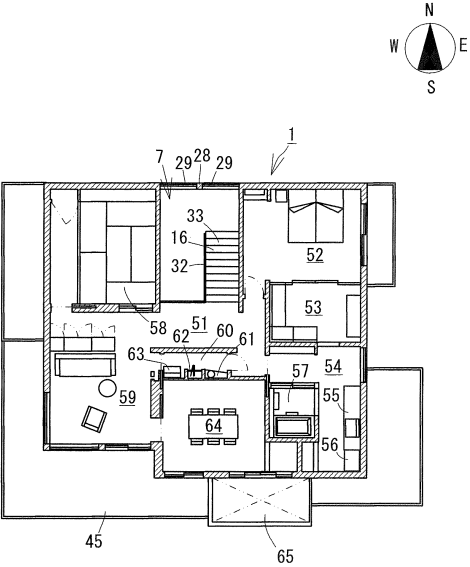
50

【図面】

【図 1】



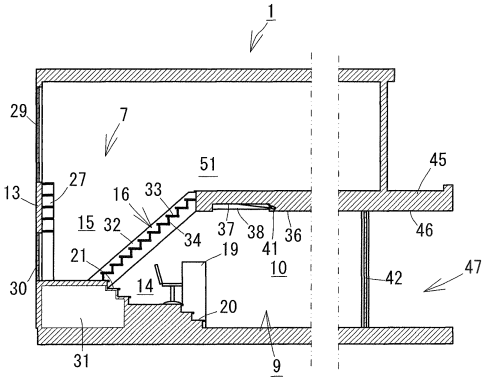
【図 2】



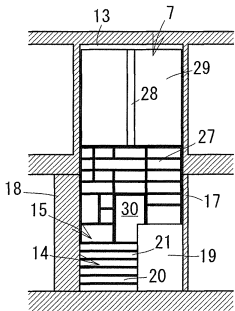
10

20

【図 3】



【図 4】

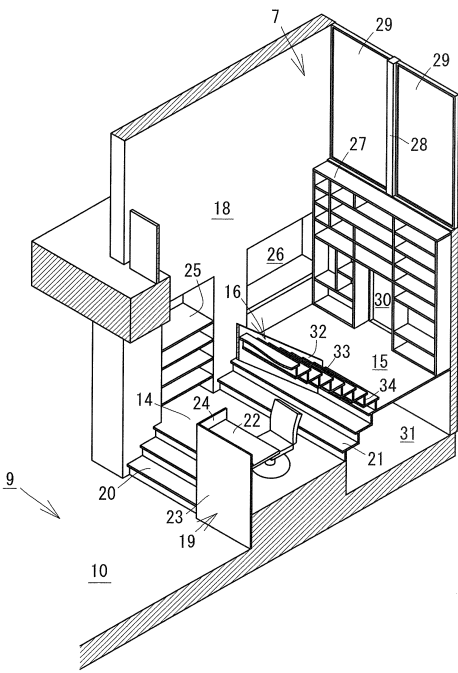


30

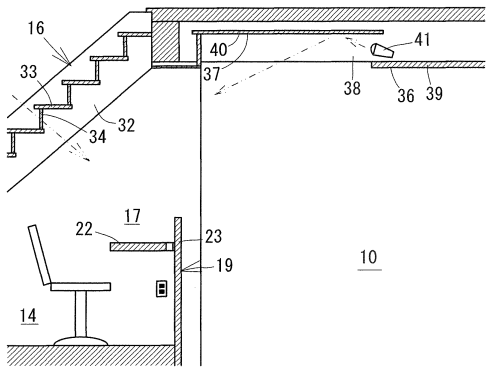
40

50

【 図 5 】



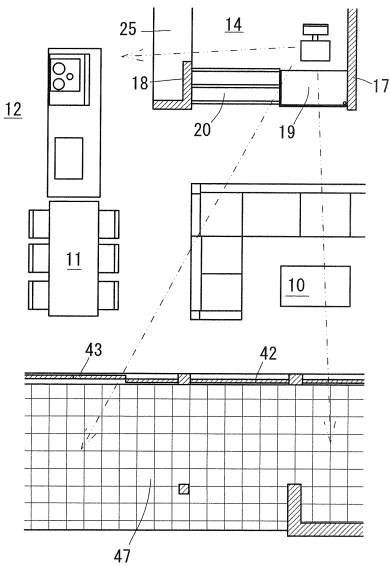
【 図 6 】



10

20

【 図 7 】



30

40

50

フロントページの続き

審査官 兼丸 弘道
(56)参考文献 特開 2 0 1 9 - 1 4 8 1 0 0 (J P , A)
特開 2 0 0 5 - 1 1 3 3 9 9 (J P , A)
特開 2 0 2 0 - 1 0 5 6 9 8 (J P , A)
特開 2 0 1 7 - 0 8 2 5 6 1 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
E 0 4 H 1 / 0 2 - 1 / 0 4